ようまいってね

2021 9月号

員　弁　組　報　　第77号

浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」組委員会
〒511-0244　員弁郡東員町大木517　　発行責任者　木 村　英 昭
員弁組ホームページ　http://www.inabeso.com/

葬儀・法要
愛灯館
桑名・多度・阿下喜
大安・東員・朝明
エンディングスペース 桑名・桑名西
http://www.soso.co.jp
株式会社ほくせい
0120-31-4242

紙上研修会
浄土真宗の本堂

一言でお寺のお堂と云いましても、宗派やその目的によって様々な様式があります。浄土真宗本願寺派の本堂も其の一つですが、時代とともに変遷を繰り返し現在に至っております。そこで今度は本堂の中をじっくりと観察してみましょう。

真宗寺院の特徴は、内陣と外陣に区切られて有りますが、聞法の道場でありますから、多くの人が聴聞出来る様に外陣を広くとってあるのが特徴です。ここで内陣の様式を観てゆきたいと思います。

上の間中央を内陣と称し、左右の余間で構成されております。内陣は無量寿経や阿弥陀経に説かれる極楽浄土の姿（荘厳）を現わされています。その中央に須弥壇が置かれて在ります。これは古代インドの世界観で、風輪・水輪・金輪の上に大地と海があり、中央の聳える神々の宿る山、スメール山（須弥山）を模した壇で、中央部がくびれ裾よりも上部が広くなっております。壇上の周りに勾欄と云う欄干の様な物が置かれます。その上に、金・銀・瑠璃・玻璃・蝦蛄・赤珠・瑪瑙の七宝で荘厳された宮殿が現されております。屋根の角には隅瓔珞が下げられ、扉は無く正面と左右に戸帳が掛けられて在ります。其の上に揚巻の組紐の房が在ります。これは現代のカーテンの様な物で、上に巻き上げる型と左右に引き結ぶ型が有り、前者を模った物です。宮殿中央にご本尊阿弥陀如来がご安置されております。其のお姿は、観無量寿経にお釈迦様が王舎城に幽閉されて居られる韋提希夫人に華座観を説かれん時、空中に遥現された阿弥陀如来のお姿で在ります。ご本尊のお顔を隠す様に戸帳の上に華鬘が掛けてあります。元来生花を糸で繋いで作られた物ですが、木や皮、組紐房や金属で作られる様になりました。現在は金属製の金華鬘が掛けられて在ります。ご本尊の上には仏天蓋と云う瓔珞の下げられた笠が吊されてあります。宮殿の前には、左右に六角金灯籠が吊されます。これはご本尊を照らす照明です。須弥壇上正面には上卓が置かれ燭台・火舎・華瓶一対の四具足に仏飯一対がお供えされます。須弥壇の前には、大きな前卓が置かれ金香炉・燭台・花瓶の三具足（又は五具足）が荘厳されます。この二つの卓に荘厳されます物は、閼伽（華瓶）・塗香（火舎）・華鬘（花瓶）・焼香（香炉）・飯食（仏飯）・灯明（燭台）の六種供具を現しております。前卓の両脇には、輪灯が掛けられております。これは仏殿を照らす照明で、ご本山に習って中尊前は菊のデザイン、祖師前は牡丹のデザインの処も在ります。

右脇壇には、須弥壇に扉の有る厨子を置き戸帳に糸華鬘を掛け、宗祖親鸞聖人の御影をご安置して在ります。中尊と同じ様に、勾欄を置き左右に金灯籠が吊されます。御影前には上卓は置かず供飯台を置きます。阿弥陀様にお供えするご飯を仏飯と云い、その他の御影前には供飯と云います。その前に前卓を置き三具足（又は五具足）を荘厳します。前卓の両脇に輪灯が掛けられます。左脇壇には須弥壇・厨子を据えないのが標準で、先師上人（本願寺前住上人、現在は前々住勝如上人）又は蓮如上人の御影がご安置されます。正面に前卓を置き三具足を荘厳し香炉後ろに供飯します。前卓の右側に菊灯一基を置きます。蓮如上人の場合、壇・厨子を置き、菊燈を置かず輪灯一対を吊す事が多いようです。

この三尊を取り巻く様に金色の柱や壁、七宝で彩られた天空を飛天が飛び交い、伎楽を奏し宝樹をふく風が妙なる音声を奏でて蓮華の雨降る世界、白鵠・孔雀・鸚鵡・舎利・迦陵頻伽・共命鳥の六鳥が囀り妙音に包まれる世界を表しています。この内陣の姿を厨子の中に再現したのが、それぞれのご家庭にご安置前お仏壇です。

次に右余間には中央に聖徳太子のご影が安置されます。前卓を置き三具足を荘厳します。前卓右脇に菊灯一基を置きます。太子１６歳の孝養像で、髪を鬢に結い衣服に二十五条袈裟をかけた姿で、柄香炉の持ち方が現在と反対に持たれています。宗祖親鸞聖人は聖徳太子を深く崇められ、倭国の教主（日本のお釈迦様）と慕われました。

左余間には、七高僧連座ご影がご安置され、前卓を置き三具足を荘厳します。前卓右側に菊灯一基を置きます。七高僧は、阿弥陀仏の誓願を顕しお念仏のみ教えを親鸞聖人にまでお伝え下さいました方々です。①インドの龍樹菩薩、上段右側に蓮華を手にされております。②同じく天親菩薩（世親）、上段左側で如意を持たれています。③中国の曇鸞大師、二段目に手に払子を持たれてます。④同じく道綽禅師、三段目左に腕を拱いておられます。⑤同じく善導大師、三段目右に赤い衣の袖が見えます。⑥比叡山横川の源信和尚、四段目左に曲録に坐されてます。⑦洛東吉水の源空上人（法然）、四段目右に数珠を爪繰られています。ご本山では、阿弥陀堂の右脇段に龍樹菩薩・曇鸞大師・善導大師の連座ご影、左脇段に天親菩薩・道綽禅師・源信和尚の連座ご影をご安置し、右余間に聖徳太子ご影、左余間に源空上人ご影をご安置してあります。（現在修復中で阿弥陀堂内陣は閉じられております。）

以上を五尊様と呼び基本のお荘厳となります。一般寺院では、余間に蓮如上人の厨子や由緒のご歴代上人ご影、または歴代住職の自影等が安置される事もあります。

今見て来ました様に、この世に苦悩する私たちに、そのままが金色に輝く智慧と慈悲の世界を、南無阿弥陀仏の今現在説法の姿を、印度西天の論家、中夏日域の高僧の思し召し、宗祖、歴代の善知識にお聞かせ頂く安住処を表してあるのでしょう。

広報部　青木義恭（東員町大木　眞慶寺）